



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月6日

上場取引所 東大

上場会社名 住友ベークライト株式会社
コード番号 4203 URL <http://www.sumibe.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 茂
問合せ先責任者 (役職名) 経理企画本部経理部長 (氏名) 山口 晋

TEL 03(5462)4111

四半期報告書提出予定日 平成25年2月8日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	136,227	△3.6	6,118	14.5	6,848	7.3	3,218	△16.0
24年3月期第3四半期	141,241	△2.9	5,341	△40.9	6,380	△36.6	3,831	△33.2

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 4,318百万円 (—%) 24年3月期第3四半期 △227百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	13.36	—
24年3月期第3四半期	15.90	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第3四半期	198,712	120,929	60.2
24年3月期	201,315	119,023	58.6

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 119,708百万円 24年3月期 117,997百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	7.50	—	5.00	12.50
25年3月期	—	5.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	180,000	△2.8	6,800	43.9	7,700	29.8	3,500	38.6	14.53

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料5ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期3Q	262,952,394 株	24年3月期	262,952,394 株
25年3月期3Q	22,041,198 株	24年3月期	22,034,107 株
25年3月期3Q	240,915,209 株	24年3月期3Q	240,924,547 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料4ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(四半期連結損益計算書)	
(第3四半期連結累計期間)	8
(四半期連結包括利益計算書)	
(第3四半期連結累計期間)	9
(3) 継続企業の前提に関する注記	10
(4) セグメント情報等	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
(6) 重要な後発事象	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間の世界経済は、欧州の財政・金融問題による低迷や、中国などの新興国における景気の減速に加え、緩やかな回復基調にある米国でも、いわゆる「財政の崖」が景気の下振れリスクとして懸念されるなど、先行き不透明感が強まりました。

日本経済についても、復興需要による下支えはあるものの、円高と長引くデフレおよび世界経済の減速を背景として、閉塞感が高まりました。

当社グループを取り巻く経営環境は、半導体においては、スマートフォンやタブレット型多機能携帯端末の販売は増加しましたが、薄型テレビやパソコンの販売の落ち込みが大きく、市場全体としては低調でした。自動車につきましては、日本国内の販売はエコカー購入支援策の恩恵を受け、また北米も買い替え需要に支えられ好調でしたが、中国などの新興国では成長が鈍化し、欧州も低迷が続きました。国内の住宅着工件数は、政府の住宅取得支援策や復興需要もあり堅調に推移しました。

当社グループはこのような経営環境の中、身の丈経営によりスリム化した企業体質を維持しながら、次の方針を掲げて新たな成長に向け総合力を結集して取り組んでおります。

①国内既存事業の再生、ビジネスモデルの転換

②新規事業立ち上げ、創生

③海外事業の収益力強化、規模拡大

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績につきましては、円高による海外子会社の円換算売上高の目減りや、フレキシブル・プリント回路事業の撤退もあり、連結売上高は前年同期比で3.6%減少し1,362億27百万円となりました。

利益につきましては、固定費の抑制や顧客密着型の営業体制の構築等収益構造の強化に努めた結果、連結営業利益は前年同期比14.5%増の61億18百万円、連結経常利益は、前年同期比7.3%増の68億48百万円となりました。しかしながら連結純利益は、遊休土地の減損や有価証券評価損等の特別損失、そして税金費用の増加もあり、前年同期比で16.0%減の32億18百万円となりました。

セグメント別販売状況（対前年同期比較）

①半導体関連材料

半導体封止用エポキシ樹脂成形材料は、スマートフォンやタブレット型多機能携帯端末向けは伸長しましたが、主用途である薄型テレビやパソコンの販売不振、円高の影響などにより売上高は減少しました。

半導体基板材料「LαZ®」は、新規顧客や新機種採用が拡大したことにより、売上高は増加しました。また、今後のさらなる需要増大に向けての安定供給体制ならびにコスト競争力を強化すべく、宇都宮工場に第二の生産拠点を建設中で、今年半ばからの量産に向け準備を進めています。

②回路製品

エポキシ樹脂銅張積層板およびフェノール樹脂銅張積層板は、車載用途向けは堅調でしたが、民生機器市況の低迷が長期化し、薄型テレビ等のデジタル家電向けが低調で売上高は減少しました。

なお、フレキシブル・プリント回路事業につきましては、平成24年9月末に計画通り事業撤退が完了しました。

③高機能プラスチック

フェノール樹脂成形材料、工業用フェノール樹脂および精密成形品は、日本や北米の自動車用途は堅調に推移しましたが、欧州危機の影響によるタイヤ、摩擦材や建築材料の深刻な需要低迷に加え、円高により海外の売上高が目減りしましたので、全体として売上高は減少しました。

④クオリティオブライフ関連製品

医療機器製品は、腹腔用低圧持続ドレナージシステム「クリオドレーンバック®」、腹腔鏡手術用腹部開創具「X-Gate®」、消化器内視鏡処置用の高周波ナイフ「SBナイフ」などの新製品の寄与がありました。一部製品の在庫調整による影響もあり、前年同期並みにとどまりました。また、地域密着型の営業体制強化のため、首都圏と高松に3ヵ所の営業所を設置し、これらを含め10ヵ所の営業拠点の新設を進めています。

ビニル樹脂シートおよび複合シートは、医薬品包装用途がジェネリックメーカー向けを中心に好調でしたので、全体として売上高は増加しました。

ポリカーボネート樹脂板、塩化ビニル樹脂板のプレート事業は、異常気象の影響もあり補修用途で波板などの建材関連製品が増加しましたが、光学分野などの落ち込みにより売上高は前年同期並みにとどまりました。

メラミン樹脂化粧板・不燃板のデコラ事業は、新製品の不燃の薄物メラミン化粧シート「デコライノベア」の市場でのPR展開を加速しました。

防水関連事業は、政府の住宅取得支援策や復興需要などにより新築住宅、リフォームが好調でしたので、売上高は増加しました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債および純資産の状況)

①資産の部

総資産は、前連結会計年度末に比べ26億3百万円減少し、1,987億12百万円となりました。

これは主に、投資有価証券が6億76百万円増加した一方で、有形固定資産が22億40百万円減少したことによるものであります。

②負債の部

負債合計は、前連結会計年度末に比べ45億9百万円減少し、777億82百万円となりました。

これは主に、コマーシャル・ペーパーを20億円増額した一方で、事業再建費用引当金が21億59百万円減少したことおよび退職給付引当金が16億33百万円、賞与引当金が12億65百万円減少したことによるものであります。

③純資産の部

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ19億6百万円増加し、1,209億29百万円となりました。

これは主に、配当金の支払24億9百万円があった一方で、四半期純利益を32億18百万円計上したことおよびその他有価証券評価差額金が5億24百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

今後の事業環境につきましては、世界経済は、欧州の財政・金融不安や新興国経済の景気減速により引き続き低調に推移し、日本経済は、12月の政権交代以降、円安や株価上昇など先行きへの期待感が表れていますが、本格的な景気の回復はまだ先になるものと予想されます。また、当社の業績に大きく影響する半導体市況は、パソコンやデジタル家電の需要回復遅れなどにより依然低迷が続き、自動車市況も、日本国内はエコカー購入支援策終了の反動減から立ち直りつつあるものの、新興国市場の成長鈍化、欧州市場の低迷などが引き続き懸念されます。

当期通期の業績予想につきましては、上述の通り、事業環境の大幅な回復を少なくとも第4四半期に見込むことが難しいことから、売上高1,800億円、営業利益68億円、経常利益77億円、当期純利益35億円に変更いたします。

このような厳しい環境に対応すべく、当社グループといたしましては、引き続きグループの総力を結集し、事業の選択と集中を進め、なお一層のコスト削減に注力し収益構造の改善を図るとともに、顧客密着型営業体制の強化による売上の拡大、ならびに新製品群の早期大型商品化を促進し、業績の向上に努めてまいります。

単位：億円

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	連結当期純利益
前回発表予想 (A)	1,820	85	93	40
今回修正予想 (B)	1,800	68	77	35
増減額 (B - A)	△20	△17	△16	△5
増減率 (%)	△1.1	△20.0	△17.2	△12.5
(ご参考) 前期実績 (平成24年3月期)	1,852	47	59	25

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社および一部の国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これによる損益への影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,957	27,290
受取手形及び売掛金	42,309	41,535
商品及び製品	9,842	9,652
半製品	2,690	3,019
仕掛品	687	647
原材料及び貯蔵品	9,932	9,640
その他	7,796	8,695
貸倒引当金	△63	△72
流動資産合計	100,152	100,408
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	29,047	28,867
機械装置及び運搬具(純額)	23,772	24,899
その他(純額)	21,924	18,738
有形固定資産合計	74,745	72,505
無形固定資産		
のれん	4,787	4,505
その他	1,556	1,397
無形固定資産合計	6,343	5,903
投資その他の資産	20,073	19,894
固定資産合計	101,162	98,304
資産合計	201,315	198,712

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	27,353	27,821
短期借入金	4,833	4,801
コマーシャル・ペーパー	12,000	14,000
未払法人税等	971	856
賞与引当金	2,475	1,210
事業再建費用引当金	2,198	39
その他	11,637	11,010
流動負債合計	61,470	59,739
固定負債		
長期借入金	10,600	10,150
退職給付引当金	6,996	5,363
その他の引当金	353	181
負ののれん	208	65
その他	2,661	2,282
固定負債合計	20,820	18,043
負債合計	82,291	77,782
純資産の部		
株主資本		
資本金	37,143	37,143
資本剰余金	35,358	35,358
利益剰余金	78,051	78,860
自己株式	△11,930	△11,932
株主資本合計	138,622	139,429
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,171	2,695
為替換算調整勘定	△20,850	△20,814
在外子会社の退職給付債務調整額	△1,945	△1,601
その他の包括利益累計額合計	△20,624	△19,720
少数株主持分	1,025	1,220
純資産合計	119,023	120,929
負債純資産合計	201,315	198,712

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	141,241	136,227
売上原価	102,832	97,371
売上総利益	38,408	38,855
販売費及び一般管理費	33,067	32,737
営業利益	5,341	6,118
営業外収益		
受取利息	112	82
受取配当金	481	343
負ののれん償却額	496	143
持分法による投資利益	0	13
為替差益	261	368
雑収入	191	264
営業外収益合計	1,543	1,216
営業外費用		
支払利息	242	238
雑損失	261	247
営業外費用合計	504	486
経常利益	6,380	6,848
特別利益		
固定資産売却益	24	593
受取保険金	—	58
退職給付引当金戻入額	395	113
特別利益合計	420	766
特別損失		
固定資産除売却損	462	678
投資有価証券評価損	47	163
事業再建関連費用	71	74
減損損失	122	593
環境対策費	—	413
解決金等	602	—
その他	154	89
特別損失合計	1,461	2,012
税金等調整前四半期純利益	5,338	5,602
法人税、住民税及び事業税	1,365	1,531
法人税等調整額	45	691
法人税等合計	1,410	2,223
少数株主損益調整前四半期純利益	3,928	3,379
少数株主利益	97	161
四半期純利益	3,831	3,218

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	3,928	3,379
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,166	524
為替換算調整勘定	△3,219	79
在外子会社の退職給付債務調整額	236	344
持分法適用会社に対する持分相当額	△5	△8
その他の包括利益合計	△4,155	939
四半期包括利益	△227	4,318
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△218	4,122
少数株主に係る四半期包括利益	△8	196

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損 益計算 書計上 額 (注) 3
	半導体 関連材料	回路製品	高機能 プラス チック	クオリテ イオブラ イフ関連 製品	計				
売上高									
外部顧客への売上高	39,235	11,883	45,793	43,792	140,705	535	141,241	—	141,241
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	246	62	308	—	308	△308	—
計	39,235	11,883	46,040	43,855	141,014	535	141,550	△308	141,241
セグメント利益又は 損失(△)	2,452	△684	3,980	2,421	8,169	14	8,183	△2,842	5,341

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、試験研究の受託、土地の賃貸等を含んでおります。

2 「セグメント利益又は損失(△)」の調整額△2,842百万円には、セグメント間取引消去7百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,850百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない基礎研究費用等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損 益計算 書計上 額 (注) 3
	半導体 関連材料	回路製品	高機能 プラス チック	クオリテ イオブラ イフ関連 製品	計				
売上高									
外部顧客への売上高	37,674	10,308	43,580	44,150	135,714	512	136,227	—	136,227
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	169	104	273	—	273	△273	—
計	37,674	10,308	43,750	44,254	135,988	512	136,500	△273	136,227
セグメント利益又は 損失(△)	3,395	265	2,526	2,953	9,141	△33	9,107	△2,989	6,118

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、試験研究の受託、土地の賃貸等を含んでおります。

2 「セグメント利益又は損失(△)」の調整額△2,989百万円には、セグメント間取引消去6百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,995百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない基礎研究費用等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

各報告セグメントの主要な製品および役務の内容は以下のとおりであります。

報告セグメント	主要な製品および役務の内容
半導体関連材料	半導体封止用エポキシ樹脂成形材料、感光性ウエハーコート用液状樹脂、半導体用液状樹脂、半導体実装用キャリアテープ、半導体チップ接着用テープ、半導体基板材料
回路製品	フレキシブル・プリント回路、フェノール樹脂銅張積層板、エポキシ樹脂銅張積層板
高機能プラスチック	フェノール樹脂成形材料、工業用フェノール樹脂、精密成形品、合成樹脂接着剤
クオリティオブライフ関連製品	医療機器製品、メラミン樹脂化粧板・不燃板、ビニル樹脂シートおよび複合シート、鮮度保持フィルム、ポリカーボネート樹脂板、塩化ビニル樹脂板、防水工事の設計ならびに施工請負、バイオ製品

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象

該当事項はありません。